

FD・SD 活動報告書
令和3年度

羽陽学園短期大学

令和3年度FD・SD活動報告書

目次

令和3年度 羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について	1
令和3年度FD・SD推進委員会事業計画	2
令和3年度FD授業検討会	3
令和3年度FD懇談会	6
令和3年度山形県私立短期大学協会主催(山形県未来創造プラットフォーム共催事業)合同研修会	14
第27回FDネットワークつばさFD協議会	18
令和3年度教員個人目標に対する自己評価	19
令和3年度卒業時満足度調査	30
令和3年度学修成果アンケート(1年次)	33
令和3年度授業改善アンケート(前・後期)	35

令和3年度の羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について

FD・SD推進委員会委員長 柏倉 弘和

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への予防対策のために、いくつかの活動について中止を余儀なくされた。

定例FD・SD懇談会は、回数を3回に減らし、食事なしで行った。また、FDネットワーク“つばさ”によって毎年行われてきたFD合宿セミナーや大学間連携SD研修会等の学外研修会も、中止やオンライン開催になった。実施できたのは、学内公開授業・授業検討会と各種アンケート・調査等である。

学内公開授業については、前期に全員で同じ授業を参観する形で行い、その後授業検討会を開催した。4グループに分かれて話し合ったが、様々な感想や意見が出され、有意義なものになった。

授業改善アンケートについては、これまでずっと“つばさ”フォーマットの質問紙を用いていたが、“つばさ”加盟校の中で実施する大学が少なくなったという事情もあり、グーグルフォームを利用し、スマートフォンによるアンケートに変えることに決まった。来年度から本格実施する予定で、今年度は試行して様子を見、来年度に備えている。

授業については、ずっと対面授業を行ってきた。ただし、全員マスクを着用し、座席は原則固定で、机間の間隔を十分に確保し、換気をしっかり行う等の対策をとりながらである。年度末にオミクロン株の感染急増という状況に対応して、少しだけリモート授業も行った。一部の科目において今年度最後の授業がリモートで行われたのだが、昨年度の経験もあり、特に混乱もなく実施されたようである。私もリモートで最後の授業を行ったが、慣れていないためあわててしまった。ただ、学生の皆さんがチャットに多数の肯定的な書き込みをしてくれて感無量であった。チャットはいろいろと活用できるのではないだろうか。

対面授業では発言することに抵抗を感じる学生もリモートなら気軽にチャットを使える。個別の関わりはむしろ対面より容易な面があるかもしれない。リモートだと学生の様子や反応が見えないし、こちらの意図や気持ちも十分には伝わらないのではないかと思っていたが、そうとも言い切れないようである。

どういう状況でも授業の改善に努めることはできるし、何より改善を図ろうとする気持ちを持ち続けることが大切であるのだろう。

令和3年度 FD・SD 推進委員会事業計画

◇事業内容

(1) FD・SD 懇談会

前年度に引き続き、【別記】の月間目標や懇談会テーマについて各自の取り組みを検証し、新型コロナウイルスへの対策をとりながらできる範囲で意見交換を行う。学生FD推進のため、FD・SD懇談会への学生の参加については可能な形で継続していく。また、事務職員目線の懇談会テーマもできるだけ設定し、教職員がお互いの業務を共有できる場にする。

(2) 公開授業—授業検討会

公開授業週間については、後期に特定の教員の公開授業か公開授業週間のどちらかを設定する。

特定の教員の公開授業については、授業検討会とセットで進める。

今年度も引き続き、非常勤講師の先生方にも参加を呼び掛ける。

(3) FD 個人目標—自己評価

前年度の自己評価を踏まえ、各教員が年度当初に具体的な目標を掲げ、年度末にその自己評価を行う。

目標と自己評価は掲示とFD報告書へ記載し、公表する。

(4) 授業評価

すべての授業で行う。専任、非常勤ともに“つばさ”フォーマットの授業改善アンケートを用いる。

足りない部分は各教員でオプションの設問を利用する。

授業評価の結果をどのように活用するかが課題として挙がっている。

(5) 卒業時満足度調査

今年度も実施する。教授会で報告し担当部署には学生の不満を検討してもらう。

(6) FD・SD 活動報告書の作成

内容を精査の上、記載事項の取捨選択を行い、紙面のさらなる充実を図る。

(7) 学外企画への参加依頼/相談

学外のFD・SD企画、研修などには可能なものに参加し、情報収集に努める。教職員の大学運営への参加意識を高める。

(8) FD ネットワーク “つばさ” との連絡

学生が参加できる事業については、早期に呼びかけ学生の興味を喚起したい。他大学の学生との交流を通して、広い価値観を持った学生を育成する。

(9) 新規事業の企画案・学内ワークショップの企画案

・教員懇談会、学内ワークショップで「授業改善アンケート、学習成果等アンケートの結果」をテーマにする。

・教員懇談会、学内ワークショップへの学生参加。

・基礎教養入門、新入生支援講座、ゼミ活動、カリキュラム、カリキュラムマップについて見直す機会を作る。

(10) 学生FDについて

教員懇談会等への参加を含め、学生とともに羽陽短大の教育を作りあげていく意識を浸透させる。

学外FDワークショップなどに参加できた学生がいれば、他学生に経験を伝えられる場を設けたい。

令和3年度FD授業検討会 記録

開催日時 令和3年5月27日 17:10～17:45

出席者 荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、松田水、花田、大関
宮地、伊藤、白崎、小田、城山、小森谷、太田(司会・記録)

教員の教育力向上を図るため、授業内容及び方法の改善を図ることを目的とし、以下の公開授業を基に検討会を実施した。

公開授業

科目	図画工作
担当	城山萌々先生
日時	①令和3年5月21日(金) 2時限(1年A組) ②令和3年5月25日(火) 1時限(1年D組) ③令和3年5月25日(火) 2時限(1年C組) ①～③は同じ授業内容であり、教員は都合のつく時間の授業を 参観した。
場所	図画工作室

1. 授業実施者による授業についての説明

シラバスに記載のあるデカルコマニーと同様のモダンテクニックのひとつ、マーブリングがテーマの授業であった。学生は、図画工作が得意な学生ばかりではない。上手、下手を問うのではなく、制作の楽しい部分を感じて欲しいと思い、マーブリングの楽しさを味わうことをねらいとした。マーブリングはシンプルな技法であるため、各自が技術に左右されず、学生たちは楽しみながら様々な美しい模様を創り出すことができていたようだ。今後は、今回のマーブリングの作品を使って造形するなど、新たな表現に結び付けたいと考えている。

2. グループ討議

4グループに分かれ、グループ討議を実施した。

Aグループ：松田知、花田、伊藤

Bグループ：荒木、高桑、大関、城山

Cグループ：柏倉、松田水、白崎、小森谷

Dグループ：高橋、宮地、小田、太田

3. 各グループからの質問、意見、感想の発表

各グループから以下のような質問、意見、感想が示された。

- ・学生が楽しんで活動していたことが印象的だった。作品には個性が見られた。
- ・マーブリングに関する知識として、マーブリングは西洋、墨流しは東洋の発祥であるという説の紹介や文化の比較、歴史についての説明があった点が良かった。

- ・マーブリングの活動後、環境構成や手順、留意点などを、学生がワークシートに自分の言葉でまとめるという点が良かった。
- ・マーブリング等の作品を各自がスケッチブックにまとめており、ポートフォリオとして活用できるように感じた。
- ・初めにマーブリングを実演して学生に見せる際に、新型コロナウイルス感染対策として2グループに分けて集まらせていたが、一度に10名以上へ見せる方法に難しさを感じた。可能であれば、頭上に鏡が設置してある調理室を使用することも一案ではないか。また、頭上から映像、画像を撮影し、プロジェクターで映すことも効率的ではないか。
- ・自分の授業では最後の「落としどころ」を決めているが、今回の授業ではワークシートのまとめについて教員が誘導することはなくても、学生がそれぞれのまとめに前向きに取り組んでいた。
- ・本の装丁、手帳、便箋といったマーブリング作品の活用法を様々に示すという工夫が見られた。
- ・予想より、マーブリングの実践時間が短かった。
- ・上手、下手ではなく、楽しさを味わうというねらいが良かった。保育活動においても楽しく活動することは重要であることから、共通点がある。
- ・保育活動として実施する場合、どこまでを子どもにやらせるのかといった、教材研究としての視点があれば、なお内容が濃くなったのではないかと思う。
- ・マーブリングの模様を見た時の、感動の伝え方をどのようにしていくか、という観点を加えても良いのではないかと思う。
- ・制作過程の説明が分かりやすかった。
- ・マーブリングでは、全員が小さめの丸いボウルを使用して作品を制作していたが、後半では大きなバットを使用したり型紙を使用したりと、応用編の作品制作に取り組む学生がいた。様々な手法を示すことで制作の幅が広がる点が良かった。ただ、応用編の作品制作に取り組む学生が少なかった。せつかくの機会であることから、より多くの学生が経験できるように配慮すれば良いのではないか。
- ・マーブリングの作品制作は、保育活動だけでなく、福祉施設のレクレーションにも活用できる可能性を感じた。
- ・マーブリングの作品を保育活動にどのように繋げていくかという点についても説明された点が良かった。

4. 3. に対する授業実施者のコメント

- ・授業で工夫した点を評価していただき、有難く思う。
- ・実践と知識教示との組み立てを、試行錯誤しているところである。技法の歴史に触れるなどの、学生の興味を引き出すきっかけを作っておいた方が、興味関心の広がりにつながるのではと思っていたが、その点を評価していただいたことを嬉しく思う。
- ・マーブリングの実演の見せ方については、鏡のある調理室を使用する方法も良いかと思った。映像で見せる方法も活用できればと思うが、対象人数がもっと多い場合に考えることになるように思う。実技系の授業では、映像を通すことで、直接見て得られる情報が減少してしまったり、立体感を把握しにくくなったりするからである。直接見た方が伝わりやすいことが多いため、今回程度の人数であれば、実際に見て欲しいと考えている。
- ・マーブリングの作品を活かした保育活動等を示すことで、状況次第で制作物を活用できることを知

って欲しいと思った。この点については、今後も続けていきたい。

- 応用編の大きいバットでの制作をできなかった学生が一定数いたことは残念である。前半の制作で盛り上がった一部の学生が独占してしまったクラス、応用編の制作に誰も取り組まなかったクラスもあった。授業内の活動に差が生じてしまったため、授業の組み立てについて今後検討したい。



令和3年7月 FD・SD 懇談会 記録

テーマ：「ティーチングポートフォリオを踏まえて、教育改善について考える」

開催日時 令和3年7月22日 16:30～17:00

場所 会議室

出席者 渡邊、荒木、松田知(司会)、柏倉、高橋寛、高桑、太田、松田水、花田、大関、宮地、伊藤、白崎、小田、芳賀、片平、城山(記録)

ティーチングポートフォリオは、一般的な教育研究業績書とは異なり、教員個人が自己査察により授業実践・指導などの記録を根拠資料とともにまとめた教育業績記録集で、教員個人のすべての教育活動の査察を深めて、教育活動の改善に活かすことができるものである。令和2年度のティーチングポートフォリオ作成を振り返り、教育改善について教職員間での意見交換と検討を実施した。

懇談会では3グループに分かれてテーマについて話し合い、その後各グループでの内容を共有した。

報告内容：

1 グループ (渡邊、高橋寛、太田、松田水、白崎、芳賀)

- ・ポートフォリオをまとめることで自分の授業を顧みる機会となり、振り返り、まとめながら苦しむこともあったが、だからこそ重要性を感じた
- ・学生からの質問について、ストレートに愚痴を言う学生が少なくなった印象がある
- ・授業のアップデートの必要性についても意見があり、本学の学生の評価は優しく、勇気づけられる反面、授業の質を上げるという点では気を付ける必要がある

2 グループ (荒木、松田知、大関、伊藤、小田、片平)

- ・ポートフォリオの書式について話題になり、「1. 教育の責任」の項目での養成校としての責任の部分は統一されていて良いのではないかという意見があった。「2. 教育の理念」「3. 教育の方法」の方で各先生の個性や考えを表明できる。
- ・学生のコメントは書かれている方が励みになるため、アンケート実施時にできるだけ書くようお願いする必要がある。スマートフォンでの入力の方が記述量は上がると思われるので、今後に期待したい。
- ・授業改善の取り組みについては、2人の先生でのピアチェックや、ほかの先生からコメントをもらうなどの方法もある
- ・目標と改善策についてはFDで作成しているものを取り入れてはどうか
- ・改善の実践については先生方の自覚をもって図っていく必要がある

3 グループ (柏倉、高桑、花田、宮地、城山)

- ・授業評価アンケートでは相反する評価が出ることもあり、「分かりやすい・内容が濃い」という意見もあれば「分かりにくい・難しい」という意見も見られ、分からないという学生の理解度を上げていくことが必要であり、重視していきたい
- ・学生が一方向的に聞いているだけの状態にならないような取り組みについても意見交換を行った

- ・学生のどのような力を育みたいのかというところの共通理解が重要である
- ・専攻科において、国家試験合格者 100 パーセントとなったがどのような工夫があったのか伺った。問題を渡して繰り返し解くように進め、アプリや試験対策問題の Web サイトなど、スマートフォンを使用して学習することで理解が進む場合もあるので活用を試みるなど、個性に合わせた指導や配慮を心掛けた。
- ・現 2 年生の現場での実習経験の少なさについても挙がり、本学の学生は実習を通して理解度などが上がっていく傾向にあるため、実践の機会を大事にしていきたいという話になった
- ・ティーチングポートフォリオは授業内容や学生の理解度を振り返るいい機会となった。書面として形にしてみると未熟な部分に分かって苦しいところもあるが、役に立つと感じた

令和3年度FD懇談会（学生参加） 記録

開催日時 令和3年9月30日 13:05～13:35

出席者（教員） 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、松田水、花田
大関、宮地、伊藤、白崎、小田、城山、太田（司会・記録）

出席者（学生） 平英幸（2D）、田中涼太（2C）、黒沼葵（専攻科）、後藤真衣（専攻科）

1. 目的

本学の教育研究活動の今後の意思決定にあたって参考となるよう、学生からの意見、感想を聞く。

2. 方法

「本学の教育について」をテーマとして、本学のカリキュラム、授業内容や方法（コロナ禍における対応も含めて）、教員による指導（実習、就職、生活全般なども含めて）などに関して、学生の意見を聴取しながらグループ討議を実施し、最後に各グループの討議内容を共有した。

Aグループ：渡邊、高桑、花田、宮地、平（学生）

Bグループ：荒木、松田知、大関、城山、田中（学生）

Cグループ：柏倉、太田、白崎、小田、黒沼（学生）

Dグループ：高橋、松田水、伊藤、後藤（学生）

3. 各グループの学生の意見、討議の内容

【授業・実習・カリキュラムに関して】

- ・なぜ土曜日に授業を実施するのかと学生の立場からは疑問に感じるが、教員側からすれば、それはコロナ禍以前からのことで、授業数が多いため仕方がない面もある。その点については、学生側も理解はしている。
- ・実習が楽しかった。指導してくださった先生方も優しく勉強になった。実習を経て、進路について悩むこともある。資格取得を考慮に入れ専攻科進学も考えたい。教員から、楽しいだけが仕事ではないとの教示も受けた。
- ・専攻科の実習では、様々な状態の利用者の方々がいらっしやったり、施設の方に教えていただいたりしたことで、色々なことを学ぶことができた。1、2年前よりも時間の流れが速かったような気がする。
- ・リモート授業にはあまり意味がないように感じる。カメラオフにすると授業以外のことをしてしまう人もいないのではないかと。リモート授業を実施する際にも、できればしっかりと課題を出してもらった方が、やるべきことがはっきりして良いと思う。授業速度に合った書込み型のプリントなどを用意してもらえると、授業に参加しやすくなる。
- ・学生が授業に遅刻、欠席することがほとんどなく、良く授業に出席できていると思う。その反面、学生が従順すぎるのではないかと教員として感じることもある。

【学生生活に関して】

- ・コロナ禍の影響により、他学年との交流を持ってない。その点については教員側でも気になっているが、学生からの要望がないと動けない面もある。

- ・行事が少なく、2年前は実施できていたことを思うと悲しい。ゼミ旅行も含め、他学年の交流が少ない。教員側からすると、ゼミ毎に交流するなど、少人数であれば交流の場を設けることは可能ではないかと思う。
- ・学生の立場からすると、行事は参加型でなければ面白くない。そのような形式をとれないのであれば実施する価値があるのかとも思う。参加型で実施できる方法を考えられないか。
- ・少人数の親しい友人とは一緒に遊びに行くなどして楽しんでいるが、本当は大人数で活動したり楽しんだりしたい。大学で今までそのような経験を持つことができていない1、2年生を気の毒に思う。
- ・教員として、学生がルールをしっかり守らないと学生の諸活動について提案できないという悩みがある。例えば、体育館はルールを守れば使えるようになるはずだが、飲食物の処理についての以前のルールが守られていなければそちらの徹底が先に必要となる。
- ・学生生活は、自分次第で面白くなるものだと思う。
- ・学生と教員との距離が近く、信頼関係を築くこともできていると学生側は感じている。しかし、教員側からすると、コロナ禍以前と比較すると両者の距離を近くすることが難しくなっている。以前の卒業アルバムを見ると、当時のようなことを実施することは、今はなかなか難しい。学生が友人関係を構築することも難しいと思う。
- ・実習前後の2週間のアルバイト禁止期間が義務付けられているため、生活維持のために苦労した。

【要望】

- ・学内の冷水器を使えるようにしてほしい。公共施設では使用可となっているところもある。





令和3年度FD・SD懇談会 記録

テーマ「研究倫理について」

開催日時 令和3年10月21日 15:00～15:45

場所 会議室

出席者 渡邊，荒木，柏倉、高橋，高桑，松田知，太田（司会），松田水
花田，大関，宮地，伊藤，白崎，小田，城山，星，石井，小森谷（記録）

懇談会に先立って事前に配布された資料「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-要約版（日本学術振興会『科学の健全な発展のために』編集委員会で作成されたテキスト版を羽陽学園短期大学研究倫理委員会が要約したもの）」や「羽陽学園短期大学研究倫理規定」，「羽陽学園短期大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規定」を読み，それらを基に研究者としての研究倫理や本学学生の卒業研究指導に当たり，留意しなければならないことなどについて検討した。四つのグループに分かれて討議を行い，その後，それぞれのグループの発表を交流し，情報を共有するという形式で検討を実施した。挙げられた内容は，以下の通りである。

- ・ インフォームドコンセントについて，学生にアンケート調査を行う機会が多くあるが，その際に匿名性は保ってはいる。真面目に書いてくれる学生が多いが，書きたくない学生は白紙で出しても構わないという声掛けをした方がよい。
- ・ 卒業研究において，論文作成の際にインターネット等からコピー&ペーストで済ませてしまう学生がいる。そういった状況を鑑みて，著作権についての指導を十分に行う必要がある。
- ・ 著作権について，どこまで保つことが適切であるのかという課題が挙げられた。授業で活用したり，公開講座で活用したりする場面が考えられるが，どういう条件で活用が可能なのか，また，授業などの閉じられた空間と近年ではオンライン等の開かれた空間での活用が想定されるが，それらの活用条件，加えてyoutube等の動画の使用許可などについても把握しておく必要がある。Google フォームによるアンケート結果のデータについてもネット上にあるので，それについてもケアが必要である。
- ・ 「羽陽学園短期大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規定 第3条 第3項」に記載されている「実験・観察ノート，実験データその他の研究資料等を10年間，適切に保存・管理」することについて，どのように保存しておけば良いのかとい課題が挙げられた。例えば，紙面でのアンケートを行った場合，調査用紙を全て保存しておくのか，それらを基に作成したデータを保存していくのかということである。
- ・ インフォームドコンセントについて，匿名性に十分留意しながら進めてはいるが，調査に伴って写真撮影をする場面も多くある。そういった場合の注意も必要である。
- ・ 共同研究について，どのようなところを分担するのかをあらかじめ相談していった方がトラブルが少ないのではないか。
- ・ 卒業研究について，盗用などがないように事前に著作権についての指導を十分に行い，引用などについて指導を行う必要がある。
- ・ 卒業研究の前段ともなる「探究的な活動」は小学校から高等学校まで多かれ少なかれ学生は経験し

てきている。そこで、卒業研究においては、課題設定の場面からしっかりとした課題意識をもたせるような指導や研究の手続きについての指導を行うことで、どこかからの盗用といった意識にはならないのではないか。

- 福祉に関する論文や保育実践に関わる論文は量的研究よりも質的研究の方が多いため、FFPについて考えていかなければならない。
- インフォームドコンセントについて、卒業研究で学生に依頼するアンケートにおいて、その依頼方法や結果の開示などについて少々乱暴な面があったのではないかと懸念されている。様々な工夫をしながら配慮する必要がある。
- インターネットからの引用について、各学会の規定を十分に調べていく必要がある。

令和3年度FD懇談会 記録

テーマ「授業改善アンケート集計結果から授業改善を考える。」

開催日時 令和4年1月27日(木) 16:10～16:50

場所 会議室

出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉(司会)、高橋、高桑、松田水、
太田、花田、大関、宮地、伊藤、小田、城山、小森谷、今野、
原田、浦山、本間、宍戸、白崎(記録)

学生を対象とした授業改善アンケート集計結果(令和2年度後期・令和3年度前期)を基に、授業改善及び授業改善に活用できる評価方法について4グループに分かれ検討し、グループで挙げられた検討内容を共有した。

グループA 渡邊、松田知、高桑、松田水、今野、宍戸

グループB 荒木、太田、花田、白崎、浦山

グループC 柏倉、伊藤、城山、小田、原田

グループD 高橋、大関、宮地、小森谷、本間

- ・アンケートの数値結果を意識して授業はしていないが、自由記述でコメントされや内容によって授業のやり方の改善に取り組んでいる。
- ・専攻科の学生の学修時間と教員の熱意は比例していない傾向があるため、学生のやる気を引き出すまでのプロセスが大きいと考える。一方で国家試験の受験という目的がはっきりしているのと新型コロナの流行が始まってから、非常勤の先生からも受講態度が良くなっているとの話が出ている。
- ・学生の勉強時間平均が30分未満であることが100%と回答をしている授業は改善が必要であると思う。
- ・専攻科では、後期の勉強時間平均が長くなる傾向にあるが、自発的に課題に取り組んでいる様子が見られる。
- ・勉強時間の高め方としては、授業内容に加えて別課題を出すのが良いのではないかと。図画工作や生活支援技術といった授業外学修時間が長い教科では課題がしっかり提示されているため、必然的に勉強時間平均が長くなると思う。
- ・卒業研究に取り組んでいる学生を見ていると、パソコンを1人1台ずつリースできるようなサービスを使うと良いのではないかと感じる。それによって学修時間にも効果が出るのではないかと考える。

合同研修会「サイバー犯罪にあわないために」

出席者 渡邊，荒木，高橋寛，高桑，松田知，太田，松田水，花田，大関，
宮地，伊藤，白崎，小田，城山，小森谷
今野，原田，浦山，本間，星，芳賀，高橋明，石井，菅野，宍戸

報告：小森谷一朗

- 1 日 時 令和4年 2月24日 14:30～15:40
- 2 会 場 本学 8号室
- 3 対 象 本学教職員・東北文教大学短期大学部教職員（オンライン参加）
- 4 講演題題 「サイバー犯罪にあわないために」
- 5 講 師 山形県警察本部サイバー犯罪対策課 山形県巡査部長 奥山 将 氏
- 6 講演内容

(1) はじめに

サイバー犯罪とは、スマートフォンやPC、タブレットなどを使ったネットワークを介した犯罪と言っている。警察では、サイバー犯罪とサイバー攻撃を別の犯罪として扱っている。サイバー攻撃とは、例えば企業に対してサーバーに攻撃したり、ランサムウェアなどを使って攻撃し、身代金を要求したりすることを言う。手元にあるスマートフォンやPC、タブレットから起こる犯罪は、ほとんどがサイバー犯罪と言って良い。

(2) 県内のサイバー犯罪（相談）の傾向

サイバー犯罪に関する相談は年々増加傾向にある。近年では、コロナ禍の状況もあり、端末に触れる機会が増えていることも一つの要因である。インターネットツールはとても便利なものであり、生活を豊かにするものでもあるが、その分サイバー犯罪にあってしまうことも増えてくる。令和3年10月までの相談内容の主な内訳は以下の通りである。

- 詐欺、悪質商法などによる被害に関するもの 38%
 - ・ インターネットショッピングでのトラブル
 - ・ 偽サイト、詐欺サイトによるトラブル
- 不正アクセスによる被害に関するもの 22%
 - ・ 無料通話アプリからの乗っ取り
 - ・ フィッシング
- 迷惑メール、スパムメールによる被害に関するもの 16%

被害にあっている年齢幅は大人も子どもも押し並べて変わらない。ということは、スマートフォン等の使い方は大人も子どもも大きく変わらない。大人の使い方がそのまま子どもの使い方になっている。

(3) ネットトラブルの特徴

- ① 誹謗中傷，脅迫行為，いじめ

これまでは、例えばトイレの壁に落書きされていたようなことが、今では、誰でもどこでも目に留まるようなネット上の「掲示板」というところに書かれていて、それが拡散されていく。SNS の利用で誹謗中傷や強迫行為、いじめに発展する可能性が出てきている。GIGA スクール構想で配布したタブレットでいじめが行われていた。これは先生側の管理ができていなかった。生徒全員の利用状況を把握するのはとても難しい。一昔前に言っていた「インターネットは危ないから使わせない」というのは、今からいえば時代遅れ。もう「臭い物に蓋をする」という時代ではない。うまくコントロールするというよりも一緒にインターネット・サイバーの世界についてどこが危険でどこが危険ではないのか、どのように使うと良いのかを考えていくことが大切。これは交通安全における車の利用と同じこと。

② 性犯罪被害，ストーカー，個人情報漏洩

出会い系サイト，マッチングアプリなどによる買春行為が横行しているという側面もある。お金や出会いのために自撮りの裸画像をアップしてしまうという子どもたちもいる。これは「デジタルタトゥー」と呼ばれ一生消えない傷になる。自分を大切にすることで自分を守っていく姿勢が必要である。

位置情報がついていたり，Twitter 等での写真投稿で建物などの情報で位置が特定されたりするケースもある。基本的に位置情報はオフになっている場合が多い。しかし，誤った操作によってオンになったり，強制的にオンになる画像ソフトもあつたりする。注意しなくてはならない。個人情報の特定につながってしまう。被害にあわないようにするためにはどうかつに自分の身の回りの情報をアップしない。

③ アカウントの乗っ取り，不当な請求

SMS や SNS などにおけるフィッシング行為，個人情報を吸い出す手法がある。

④ 違法アップロードとダウンロード

ファイル共有ソフトで著作権のある動画や映像，音楽などをアップロード

⑤ ながらスマホによるトラブル

スマホに夢中になって交通事故にあうということや授業中も手放さないことから友人等のトラブルにつながる事例もある。スマホの利用について家族等でルールを設けなければならない。

(4) 事例紹介

① セクストーション（性的脅迫）

学生向けではないので，この話題に触れるが，学生に話す場合は柔らかく伝えるほうが良い。

【LINE でのやりとり】

- ・ 見ず知らずの人とのつながり
- ・ 何度かやりとりをしているうちに性的画像の交換やアプリのダウンロードを依頼してくる
- ・ 強迫行為を受ける（現金の要求）
- ・ アプリ（exe ファイル）の中にウイルスがあり，個人情報を抜き取られる

お金を払ってしまう人が多い。また，若年層の被害が多い。知らない人とのやりとりには気をつけるといった指導が必要。手口を知らなければ対策も立てられない。手口を知っておく必要がある。

② スミッシング（SNS＋フィッシング）

ショートメールから送られてくるが，名前や住所等が書かれていない。

【もし、クリックしてしまったら…】

- ・ URL にアクセスしてしまう
- ・ アプリケーションがダウンロード・インストールされてしまう
- ・ コンピュータウイルスに感染してしまう（他にばら撒く）
- ・ 入手したクレジット情報などをもとになりすまして商品購入などをされてしまう被害も

これまでは、Android 端末に限ってのことであったが、昨年 9 月に iPhone でも被害にある事例が起こった。そもそもアクセスしなければこのような被害は起きない。

(5) サイバー犯罪の現状、逮捕事例

- ・ 他人の ID・パスワードを無断で使用 → 不正アクセス禁止法
- ・ メルカリで購入者に商品を送らない → 詐欺
- ・ SNS 上の犯行予告を書く → 脅迫
- ・ ネット上の悪口 → 名誉毀損
- ・ インターネット上に少年少女漫画を掲載 → 著作権法
- ・ 児童の裸の写真を掲載もしくはメールで送信 → 児童ポルノ禁止法

【全国的な事例】

- ・ ランサムウェアにかかる不正指令電磁的記録作成事件
- ・ オンラインゲーム「モンスター」に対するチートツール
- ・ ネタバレサイトの掲載

【県内での事例】

- ・ Twitter による脅迫
- ・ LINE によるポルに画像配信

サイバー犯罪に年齢は関係ない。そこを十分に噛み砕いて指導していくことが大切である。

(6) IT ネットリテラシー

IT ネットリテラシーとは、インターネットそのものを使いこなして、自分の意思で情報を取捨選別して使いこなすまでを含めた能力のこと。これが現在求められている。

インターネットで拡散された情報は回収するのが不可能（デジタルタトゥー）なので慎重に。また、インターネットの情報を信じきってはいけない。きちんと取捨選別できるようにすることが大切。インターネットは薬にも毒にもなる。どのように活用するかは自分次第。

基本的なインターネットのルール

- ① 住所、氏名などの個人情報を公開しない
- ② 安易に写真や動画を投稿しない
- ③ 面と向かって言えないことは投稿・送信しない
- ④ ID・パスワードを公開しない
- ⑤ 顔を知らない人にはまず基本的には関わらない

当たり前のことだが、当たり前でなくなっている。当たり前のことを当たり前には伝えなければならぬ。ルールを守らないと被害者や被疑者になってしまう。被害者になった場合には自分も傷つくし、家族も傷つく。犯罪者になってしまったら、自分や家族、そして相手も傷つく。こういった当

たり前のことをきちんと教えてある必要がある。

(7) おわりに

セクストーション、スミッシングの他にも、ランサムウェア、サポート詐欺、ロマンス詐欺など手口はたくさんある。発信された情報にアンテナを向けておくと受け取りやすい。それを伝えるのが教職員の役割。県警 YouTube のチャンネルにサポート詐欺の事例があるので、是非ご覧いただきたい。また、110 ネットワークも是非登録して活用してほしい。

(8) 質問

【東北文教大学】

Q：使わなくなった Facebook の幽霊アカウントを乗っ取られたといった事例が多くあったのだが、そのような事例はあるか。

A：そのような事例は山形では受けていないが、全国的に見ればあると思う。

【東北文教大学】

Q：どのくらいの頻度で小学校で講演を行われているのか。また、その場合、何年生に多くされているのか。

A：具体的な数字は提示できないが、肌感覚で言うと、5・6年生が多い。(一人で行動することが多い) 件数としては、昨年度はコロナ禍の影響で少ないが、一昨年度は講演全体の約4割が小中学生。

【羽陽学園短期大学】

Q：スミッシングについて「同窓会のお誘い」

A：キャリアメールで昔からある手口。いろいろな文章がある。全て嘘。同窓会の場合は、連絡がつく方に確認する。メールに返信するのはご法度。

【羽陽学園短期大学】

Q：ネットでできた関係からリアルで会ってしまうケースについて

A：できるだけマンツーマンで会わない。初めからマンツーマンで会いましょうといった場合は疑ってかからないといけない。送られてきた写真や名前も疑わしい。線引きを十分にしている必要がある。

「第27回FDネットワーク “つばさ” FD協議会」

報告： 柏倉 弘和

1. 期日：令和3年6月4日（金） 15：00～16：30 Zoomによるオンライン開催

2. 本学参加者： 柏倉 弘和

3. プログラム

第1部 協議会（15:00～15:30）

第2部 事例報告（15：30～16：30）

4. 内容報告

（1）第1部 協議会

①FDネットワーク “つばさ” 令和3年度事業計画の変更について

月	事業内容	開催場所
4	「週刊授業改善リレーエッセイ」連載開始	
6	第27回FDネットワーク “つばさ” FD協議会 前期 授業改善アンケート実施	山形大学 各加盟校
7	学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」	山形大学 →中止
9	FDワークショップ →オンラインで 学生FD会議	山形大学
12	学習成果等アンケート実施（12月～1月）	各加盟校
1	後期 授業改善アンケート実施	各加盟校
2	学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」	山形大学
3	研究年報2021発行	

（2）第2部 事例報告

「びらとり大地連携ワークショップ2020の報告」

山形大学学術研究院教授（理学部主担当）

山形大学教育開発連携支援センター長

栗山 恭直

- ・北海道平取町での大地連携ワークショップについて
- ・2020年度開催のワークショップの報告と2021年度の募集について

「山形大学におけるデータサイエンス教育の取り組み及び認定制度
への対応状況について」

山形大学学術研究院教授（地域教育文化学部主担当）

山形大学データサイエンス教育研究推進センター副センター長

中西 正樹

- ・本学におけるデータサイエンス教育の取り組み
- ・認定制度に関する動向及び本学の対応状況

令和3年度 教員個人目標に対する自己評価

役 職	学長・教授	教員名	渡邊 洋一
－授業としての取り組み目標－			
資格・免許に直結しないようにみえる授業も、人生を送る上で貴重な力を生む基盤となることを、授業の体験を生かして理解してもらえよう、一層の努力をしたい。コロナ禍も、科学的思考とそれをふまえた行動を修得するためのきっかけとして有効に利用したい。			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
新型コロナウイルスの感染が収束せずむしろ県内でも拡大したことから、対面やグループでの心理学実験などを授業内で実施できなかったが、幼児教育や保育と直接に結びつかないように見える話題にも関心をもってくれた学生が多かった。コロナ禍が、かえって初期の授業の目的である「科学的に考える」ことを促進したのかもしれないと考えている。		新型コロナウイルスの感染拡大や新たな戦争の気配など、不安なことが多い昨今だが、保育や福祉に携わることが、日々の生活の基本として重要なことをあらためて考える機会としたい。そして、学生諸君が、冷静に科学的に考える習慣を身につけて、責任ある行動のできる社会人となる助けとなる教育を実践したい。	
－学生とのかかわりとしての目標－			
学生諸君の若い感性や考え方を、迎合することなく、情報として受け止めて、それぞれの個性を生かせるような教育を実践したい。学生諸君には、自分と違う感性、個性を理解し受容することが保育や福祉の基礎であることを理解してもらいたい。			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
新型コロナウイルス感染の危険は今年度も減少せず、密接な距離をとったり、討論に時間をかけることができず、一方的な場面が多くなりがちだった。担当が職業訓練生となる卒論ゼミは、個人の時間を尊重しつつ、時間通りに卒論を仕上げる事ができた。ゼミ以外の学生諸君ともっと交流したかった。		新型コロナウイルスの感染はまだ収束しそうもないが、マスク越しの会話も慣れてきたので、換気や時間配分を工夫して、実験やディスカッションの時間を多くし、一人ひとり学生の意見を聞き取れるようにしたい。	

役 職	専攻科主任・教授	教員名	荒木 隆俊
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・基本は、マニュアル化した専門職者を育てるということではなく、将来に向けて今何が必要か、どんな視点が介護支援に必要なのかといった点に触れ、特に「命・生きる」ということについて追求できるような授業を心がけ、介護、幼児教育双方に共通する視点を身につけられるような授業を作る。 ・介護福祉士国家試験全員合格を目標に、学修意欲を高める努力をする。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業については目標に沿った授業を心がけ実施したが、個々の理解度について配慮しながら授業を進めていくための工夫と努力が足りなかった。 ・介護福祉士国家試験に向けての準備は、早い段階から意識づけを行うようにしたが、各学生の進捗状況が見えず、個々の学習スタイルに任せきりの部分が多かった。やはり、いかに学修意欲を高めるかが課題であった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の柱は、例年と同様に進めていくつもりであるが、個々の理解の程度については、適宜、確認をしていく。 ・介護福祉士国家試験対策としては、学習意欲を早い段階から持つよう進めていくために、学生の様子や意見をしっかりと取り入れながら見守る。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			

<ul style="list-style-type: none"> 各学生の性格を具体的に把握し、個々の学生に適切な助言やアドバイスができるよう、日頃の対話を重視する。 介護福祉士国家試験受験勉強の進捗状況を確認するため、定期的に個人面談を実施し、年間を通じて授業時間以外の学習ができる意識を持たせていく。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> 学内での生活は、今年度もコロナウイルスの影響で制限されたが、各学生にはそのような状況でも主に授業を中心にして、できるだけ関わる機会を多く得よう努めた結果、各学生の個性や努力を認めながら励ませたと思う。 学生も制限された不自由な環境の中で、頑張ってくれたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスの影響が今後どの程度になるのか不透明なところがあるが、学生との丁寧な関わりを心掛ける。

役職	図書館長・教授	教員名	柏倉 弘和
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> 幼児を大切にする保育とは、具体的にどういうことをするのか、しっかり考えられる授業を心がける。 実習で行った実践について、十分に振り返り、修正・改善できる力を育てる。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>「保育・教育実践演習」においては、ある程度目標を達成できたと思う。</p> <p>学習者は、実習での経験や気づきをもとに、自分の実践と比べながら実践記録を観て、分析できていた。振り返りは十分であると言える。個人差はあるが、修正・改善も概ねなされていた。</p> <p>幼児を大切にする保育についてもそれなりに考えることができていた。少なくとも既成概念に疑問を持ち、より深く実践的に考えるきっかけにはなっていたと思う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発言をもっと引き出せるような発問を工夫したい。 実践の課題をしっかりと捉え、修正・改善について十分考えられるような組み立てにしたい。 理念を実践の中で具体化することを考えるような内容にしたい。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<p>授業やゼミはもちろんそれ以外の機会も含めて、学生の皆さんとの一回一回の関わりを大切に、気持ちを受け止められるように努める。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>学生の皆さんとの関わりを大切にするように心がけた結果、ゼミや授業を通して、全員とまではいかないが、気持ちを通じ合い、良好な関係が築けたと思う。</p>		<p>研究室で待ってるだけでなく、学生の皆さんのいる場所や場面に行き、関わっていききたい。</p>	

役職	教授	教員名	高橋 寛
－授業としての取り組み目標－			
<p>例年のことではあるが、教員の言葉、歌声、ピアノの演奏などのアナログな「耳からの情報」に注意を向けさせ、「聴き取る、書き取る、記憶に残す」という作業を必要とするような教材を更に改案し、そのような授業の進め方を充実させる。これを指向することは、担当教科以外の学生指導という側面にも有効であるはずだ。本学の卒業生たちの就職先から『ピアノをもっと弾けるようになってきて欲しい』との意見が多く寄せられている昨今、「歌うだけ」「ピアノを弾くだけ」のスキルで</p>			

は、幼児教育の現場では適応できない。スキル・アップすることの喜びを実感できる授業の実施に努める。	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
概ね目標は達成できたと思われる。もう少し担当科目以外のスケジュールが緩やかだと嬉しいが、こればかりは自由にならないとあきらめている	今年度同様にひたむきに努力し、学生たちの将来に寄与できるようにしたい。
－学生とのかかわりとしての目標－	
<p>最近の学生に多く見られる「自分なりに社会のルールを改変して生き抜こうとする」姿にはけっして同調しない。学生たちにとっての「もっとも身近な社会人」としての立場をこれまで同様に重視し、適度な礼節は確保しつつ「高圧的な教師でもなく、我関せずの大人でもない」ことを基本のスタンスとしたい。</p> <p>また、舞台上に立ち続けるプロの現役（歌手・役者・演出家・合唱指揮者・・・）として、日常の体調管理や、あるべき対外との交渉術などを、機会あるたびに学生に公開し、または企画への参加・共演を促し、よき見本となるように努める。</p> <p>フットワークを軽く、思考を柔軟に、精神は実直に、大人としても「人生を前進する」姿勢を示していきたい。</p>	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
多忙ではあったが、ほぼ目標を達成できたと感じている。	今年度と同様の目標設定にしたいと思っている

役 職	教授	教員名	高桑 秀郎
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な授業環境を維持できるよう働きかける。 ・論述問題の要点等を伝えながら、それを学生が再出力できるような働きかけを工夫していく。 ・教材のパワーポイント化で、クラス間の教授内容に差が出ないように工夫を進める。 ・点呼時の挨拶・返事の重要性を説く。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業環境は、新型コロナの影響もあって、いたって平穩だったと思う。 ・多くの学生はパワーポイントで示した要点を示すことができた。 ただそれが、その内容を十分に表現できているかというと、記号を当て嵌めただけに感じられるものも少なくないので、今年はそこを改善していきたい。 ・授業を進めてみて誤字、誤植があったので、修正していきたい。 ・慣れて来ると返事が聞こえないものも少なくない、周囲の環境にも注意を払いたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き授業を受けやすい環境に気を遣っていきたい。 ・パワーポイントの入力情報を変えていく。 ・説明を丁寧に行っていく。 ・返事の重要性は、実習などと絡め、重要性を引き続き訴えていく。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が相談に来やすいよう、研究室の整理を心掛ける ・学生指導については、自分だけの独善的な指導にならないよう、他の教職員と情報を共有して進めていく。 ・学生が自立し、主体的に考え、行動できるような働きかけを行う。 ・ソフトな対応を心掛ける。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<ul style="list-style-type: none"> ・研究室の整頓は全くダメだった。とにかく数年動いていないものは捨てる。 研究室のスペースを空けることから始める。 ・共有しながら進めたと思う。 ・永遠のテーマなので、引き続き模索を続けたい。 ・ゼミの学生などには雰囲気が変わったと言われたが、他の学生の反応は分からない。以後引き続き意識していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反省にも書いたが、不要なもの（書類、古い雑誌）等は捨てる。 腰を据えて、定期的に空きスペースを作れるようにする。 ・学生指導に関する教員間の情報共有・連絡は引き続き行っていく。 ・マスク着用なので、忙しい時は特に、険しい顔にならないように注意する。
--	--

役 職	学生部長・教授	教員名	松田 知明
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響受けると予想されるため、急な変更に対応できるようにしたい。 ・Google フォームを使ってコミュニケーションを深め、その意義を考える機会を増やし、授業の理解も把握するよう心掛けたい。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・前期は、実習関連での対応が必要な事項があったが、実習委員会的確な対応で、資格取得等への影響はなかった。 ・後期は、休講やリモート授業の実施など、急遽対応することもあったが、昨年度の経験を生かすことにより、概ね順調に進めることができた。これも日頃からの教職員のご協力によるものと感謝している。 ・ Google フォームを使うことにより、授業の理解を把握し、次回の授業で細くできた。しかし、コミュニケーションを深め、その意義を考える機会を増やすことは十分できなかった。 		－	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる制限の中ではあるが、学生とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の思いを把握し、適切な支援ができるよう努めたい。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによるゼミ活動や研究室への出入りする人数の制限があり、研究室でのコミュニケーションの機会を増やすことはできなかった。しかし、お昼時間に学生ホールにいることにより、コミュニケーションの機会を増やすことができたが、一部の学生とのコミュニケーションに限定されてしまった。 		－	

役 職	学科長・教授	教員名	太田 裕子
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・提示事例に配慮し、学習内容の理解と定着、学習内容の保育との繋がり理解促進を目指す。 ・学生間及び学生と教員間の直接的・間接的な応答のある授業実施を通して、学生の授業の理解や取り組みの適切な現状把握、学修意欲の向上に繋げていきたい。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<ul style="list-style-type: none"> ・レポートや試験の記述内容などから、学修内容の理解については一定の定着ができたように思う。具体的かつ学生が親近感を持てる事例、教材を可能な限り視覚的に提示することに努めたことが、興味喚起に繋がったと思われる。一方で、その興味関心を、学修内容と保育との繋がりの理解にまで深化させることには課題が残った。 ・授業態度、提出物の内容から、学生の現状を把握し授業のスピードや内容を微調整しながら授業を進めていくことはできたように思う。 ・学生の提出物へのコメント記述等の個別対応は極力心がけていたが、授業以外の業務との兼ね合いもあり、常に実行できたとは言い難い。応答的な関わりのある授業実施は、学生が安心して学ぶための必須条件であるため、授業形態の制限がある中でも実施することの大切さを改めて感じた。 	
－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が大学生活、学修に対して安心感を持って取り組み、希望の進路決定を実現できるよう、各々の個性や事情に配慮したかかわり及び支援を継続する。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルスへの対応に時間と労力を要し、学生とかかわる時間の回復は叶わなかった。また、常時のマスク着用により、学生の同定に時間を要した。不測の状況下の学生に対して、限られた条件の中で思いへの傾聴や進路実現の支援を実施したと思うが、本学の教育の根幹である学生とのかかわりを丁寧かつ愚直に持続することを止めてはいけないと痛感もした。 	

役 職	准教授	教員名	松田 水月
－授業としての取り組み目標－			
<p>介護福祉士国家試験に向け、学生個人個人にあった学習方法を早期から提案していく。授業内容も学生自らが興味関心を持ち自ら学びたいと思う授業に心がける・ また、物事も考え方、視点について広い視野で物事を捉え判断できるような授業づくりを心掛けたい。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>どの学生が、何に興味を示し何が苦手なのか早期に個性を把握し、個別の指導等を行ってきたことは今後も続けていくべき点であると評価している。しかし、模試などで安定した点が取れず、むらがある学生に対してその原因を早期に追求し、解決していく必要性は今後も必要だと感じた。 コロナ禍で、なかなかグループワークにも制限したり、注意をはらいながら行ってきたが、お互いの士気を高めるためにはいいきっかけにはなると痛感した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学生に早期から介護福祉士国家試験の現状を知ってもらうため、試験の情報、受験会場の情報を分析し個人個人にあった学習方法を提供する。 ・様々な教材を活用し、学生に興味がある学習内容に常に心掛ける。 ・現任教育の一環として、マナー教育等にも細心の注意をはらう。 ・学習内容が、単調ではなくなぜ必要でどういった分野に繋がるか、根拠を明確にし、理解しやすい授業に心がける。 	

－学生とのかかわりとしての目標－	
<p>個々人との関わりの中で、学生自身の個性を早期に理解し、課題等を共有していく中で、助言できるように心がける。</p> <p>後悔の無い一年になるよう、対話を大切に学生の理解を深めていく。</p>	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>介護福祉士国家試験の受験のために、どうしても試験対策に集中してしまう点はある。それと同時に、人と関わる仕事について、より深く自分で考えることが必要に思う。人、高齢者と関わるとはどういうことなのか、学習も大切にしたいうえで、あたりまえだがふと忘れそうになることを、ともに考え、より一層大切にしたい授業を作っていく必要性を感じた。</p>	<p>コロナ禍にあって、1年で就職活動・国家試験勉強・実習と奮闘する学生の心境を理解し応援していきたい。何らかのコミュニケーションツールを活用し、早期から学生と意思の疎通、共有が図れるようになっていきたい。</p>

役 職	准教授	教員名	花田 嘉雄
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々の良い点や個性的な発想を見つけたら、その場で褒めるように心掛ける。また、色々な表現や価値観を受け入れ、他の作品にも興味を持てるように、鑑賞や発表の方法を工夫する。 ・授業の意義が伝わるよう意識し、話し方を工夫する。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・発表の際、発表を聞いた学生の感想を聞くことによって、教員とは違った幅広い視点での意見や価値観を共有することができるので、次年度も継続したい。 ・オンライン授業になった際には特に、学生に分かりやすく伝える工夫が必要と感じた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表だけでなく普段から学生の意見を拾い、共有する機会をつくる。 ・オンライン、対面にかかわらず、学生がイメージしやすいように視覚的な参考資料を増やすようにする。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・頃合いを見ながら、学生が自ら考え、責任を持って行動できるような働きかけをする。 ・学生が少しでも学校生活を楽しめるよう、また、無事卒業できるよう応援する。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため行事等がほとんどなく、学生が自分たちで考えて考動する機会が少なかったこともあり、責任を持った行動につなげることが難しかった。 ・学生は窮屈な状況であるので、できるだけ発散しやすい雰囲気づくりを意識した。就職活動では、年度内にクラス全員が無事内定をもらうことができたが、公務員試験のため他の進路先に迷惑をかけるミスがあったので修正したい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自分の行動に責任を持てるように、自分で考える機会を増やすように意識してかかわる。 ・行事やサークルなど、キャンパスライフの制約を少しずつ解除できるよう働きかける。 ・就職指導をする際は、再度しっかりルールを確認するようにする。 	

役 職	准教授	教員名	大関 嘉成
－授業としての取り組み目標－			
<p>授業や課題の目的を適宜伝達し、その妥当性を考えさせ、意見を求めることで、批判的な視点や学びの主体であるという当事者意識をもたせる。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<p>授業の初回における授業のテーマ等の説明はもちろん、随時課していく課題に関して、丁寧にその意図・目的を説明し、併せて採点基準も示した。その上で、学生にその課題の妥当性を考えさせ、その意見を求めた。しかし、意見は出されなかった。また、その行為が学生に批判的な視点や学びの主体であるという意識を持たせたかも疑問である。</p> <p>しかし、採点基準を示し、採点後に当該課題を返却するという行為は課題に「取り組ませる」という点では効果的に感じている。目的の説明や得点が、遂行によって得られるかもしれない能力の一種の「見える化」であるならば、得点（評価）にこだわることと同時に、その能力を獲得することの意義理解や期待もあったかもしれない。</p>	<p>まず、左記の取り組みは継続していくこととする。そして、そのような処遇がなされなくとも、課題等には真摯に取り組む姿勢が身に付くようにしたい。</p> <p>そもそも、学生自身に学びの主体であるという意識を高めるために、提示された課題の妥当性を考えさせるという処遇は、当該課題に追加されたメタコグニティブな認知負荷を課すものであり、学生には混乱を生じさせていた可能性がある。よって、学生の意見には今まで通り傾聴するが、上記の類の意見を強く求める行為は控えようと思う。</p> <p>新年度は講義形態の授業において「発見学習」となる機会を増やし、授業への参加意識、さらには貢献意識を高めていきたい。</p>
--	---

<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<p>課題を進める上での目安とする期限を段階的かつ具体的に、その根拠と共に示す。</p>	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<p>学生が自己管理をする上で必要だと考えられる情報や高い関心を示す情報は、自身の授業における課題のフィードバックに併せて、早めに伝えるよう努めた。しかし、根拠の提示が「教員自身の都合」によるものが中心であった。</p>	<p>学生が時間管理を身に付けるために、次年度も継続目標とする。特に卒業研究など個別対応が取りやすい場面では、学生個々の予定等もよく確認して、共にスケジュールを組み立てていきたい。</p>

役職	講師	教員名	宮地 康子
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向けて、早い段階から学習習慣が確立できるような働きかけを行う。 ・授業内容については、教科書だけでなく、写真や画像等の資料を用い、学生が理解しやすい内容を工夫する。 ・暗記だけではなく、社会人となった時に柔軟に対応できるよう、自分の考えが持てるようにグループディスカッションも取り入れていく。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着に個人差があり、後期に入っても集中して学習に取り組めない学生に対して早い段階で個別の指導を実施する必要があった。 ・教科書だけでなく、覚えてほしい内容や分かりづらい内容については追加で資料を渡す等し、学生が復習しやすい工夫を行うことができた。 ・前期の授業では、学生からの答えてもらうような働きかけができたが、後期はグループワーク学習において学生同士の教え合いの中で、分かりやすく他者へ伝える方法を学んでくれていたと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習に集中できていない学生を早い段階で、声をかけるようにし、クラス全体で学習に向かう意欲が上がるようにさらに個別的な指導を実施する。 ・次年度も学生の理解度に合わせて、資料等を作成、配布し、苦手な分野も克服できるような配慮をしていく。 ・授業等において、学生が自分の意見を話しやすい環境を整え、多様な意見を聞く話す機会を設ける。 	
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中での生活になることが予想されることから、学生 			

<p>一人ひとりに目を向け、意識的にコミュニケーションを図るように心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験全員合格を目指して、クラスが一丸となって最後までやりきることができるように、クラス全体の士気が高まるような声かけをしていく。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・意識的にコミュニケーションを図るよう配慮したが、伝えたいことが理解されていないことがあったため、さらに大事なことを繰り返し伝える等、伝え方を工夫する必要がある。 ・国試直前にリモート学習になり、本番まで不安だったと思うが、クラス委員を中心に自ら学習しようとする姿やお互いを励ましている姿も多くみられ良かったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年もコロナ禍の終息がまだ見えない中での生活となるため、早い段階で学生一人ひとりについて把握できるようにコミュニケーションを大切にし、細目な声かけを心がける。 ・自分で意欲的に学習できるように、模擬試験等の結果等、頑張りを認めるような声かけを随時意識的に行っていく。

役 職	講師	教員名	伊藤 和雄
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育に加え介護、福祉分野への興味、視野を広げられるものの見方、捉え方、多様性を意識できるように取り組む。 ・不得意科目とする社会の理解、障がいの理解の理解不足が一つでも少なくなるよう、得点に結びつくよう工夫し、介護福祉士国家試験の全員合格を目指す。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応により今まで以上に一方的な授業になってしまった。 ・オンライン授業の不慣れ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、学生の発言に機会を多くする ・パソコン、携帯等の積極的に活用する。 	
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・職場での実務経験をいかし社会人として、専門職人として何が大切か、求められているものは何か、スキルアップの重要性を意識し積極的にコミュニケーションを図る。 ・悩みや、精神的負担が軽減できるようよく話を聞く。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、様々行事が中止となり、授業以外での学生との活動、話を聞く機会が減り学生との関係が希薄になってしまった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい雰囲気づくりの一つとして、積極的に挨拶、声かけをする。 ・定期的な個人面談の機会を設け、学校生活や日常生活での不安、不満を少しでも解消できるようにする。 	

役 職	講師	教員名	白崎 直季
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な部分を充実させ、ケアを丁寧に行うことで苦手意識を少なくしていくようにする。 ・考えを深めていけるような授業展開を行う。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの授業に関しては、より個人と向き合えるということもあり、個性を見ながら課題を出すことができるため、丁寧に授業を進めることができたように思う。また、授業時間外にも指導をするなどの対処を行うことにより、初期段階で苦手意識を持たないようにケアを行った。しかし、基礎的な部分の充実を図ることで一方的な学修環境になってしまったため、主体的に学修を進める環境を作る必要性を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度入学生はピアノの授業時間数が減るため、教材を精査の上、短い時間で実践力を養う内容を展開する。
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身で考えて積極的に行動できるような促し方をしていく。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染対策により、学生の行動をコントロールしてしまう傾向にあったように感じる。また、情報端末でのコミュニケーションをとる際のマナーを指導する機会が必要であると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面でのコミュニケーションを大切に

役 職	講師	教員名	小田 幹雄
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を徹底しつつ、学生が主体的に考え、活動する場面を多くし、実践的な学びに繋げることが出来るよう展開する。 ・グループ演習活動を充実させ、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される社会人基礎力の向上に努める。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<p>コロナ禍においてグループ演習活動を充実させるには至らなかったが、制約がある中でも感染対策を徹底した上で最大限演習を行うことが出来た。一方でグループワークの振り返りの時間が足りなかった。次年度は社会人基礎力の向上のためにグループ演習活動をより充実させるとともに、振り返りの時間をしっかりとすることで実感の伴った授業を構築したい。</p>		<p>感染対策を徹底することはもちろん、他学の取り組みにおいて有効と思われることは率先して取り入れられるように、同領域の先生方との情報の共有化を深める。また、活動の振り返りを疎かにせず、自分以外の意見を受容しやすい環境にするためにポジティブな声かけをする。</p>	
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人ひとりに親身に関わるため、本気で対峙していく。 ・コロナ禍で不安や悩み等のストレスをため込む学生が多くなると予想されることから、少しでも軽減できるよう傾聴を心掛ける。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<p>今年度は4月から対面授業を行うことができたため、昨年度と比較して学生のストレスは軽減したように感じた。一方で2年次の実習が増えたため、学校生活よりも、実習に対しての不安が多かったようである。そのため、なるべく不安や悩みを聴くよう心掛け、学内外ともに円滑な学生生活が送れるように配慮した。</p>		<p>授業以外の時間に学生と積極的に関わりを持つとともに、傾聴を意識することで学生の気持ちを理解し、信頼関係を構築していく。</p>	

役 職	講師	教員名	城山 萌々
-----	----	-----	-------

－授業としての取り組み目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・上手い／下手などの評価軸に依らない造形表現の内発的な楽しさを、学生自ら捉えられるようになることを目指す。 ・ものづくりや素材との触れ合いの中で見つけた問いや気づきを共有し、尊重し合えるようにする。 ・学生が、子どもの造形表現の支援者としての力を身に付けられるような授業づくりを目指す。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>今年度も感染症対策のために作業環境や内容に制限がある中での授業だったが、昨年度よりはできることも増え、造形表現を通して発散や解放感を味わう機会にもなったのではないかと考える。</p> <p>自由度の高い造形あそびに取り組みにくい学生も少なくないので、配慮や促し方を工夫していく必要があると感じた。</p>	<p>造形表現活動を通じて、感染症対策下での生活の閉塞感から解放されるような機会を持てるのではないかと考え、言葉などで表せない思いに自ら気づき、発散できるような機会を取り入れていきたい。</p> <p>自由度の高い内容では環境設定や導入を丁寧に設定していくようにしたい。</p>
－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生ひとりひとりと丁寧に向き合い、学生が充実した大学生活を過ごしていけるような手助けをしていきたい。 ・学生自身が表現することを楽しめるように、環境づくりや声かけを工夫していきたい。 ・感染症対策をしながらの生活の中で抑圧されている部分やストレスなどに目を向け、少しでも楽しい体験や時間を増やしていけるようにする。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく学生とコミュニケーションの機会を持てるように試みたが、全ての学生に対して均等というのは難しく、顔と名前の一致には苦労した。 ・今年度は初めて担任も持ち、クラスの学生との交流を積極的に行うようにしたが、後期にはその機会がなかなか持てない部分もあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・より学生たちのことを知る姿勢で挨拶や声かけを行っていく ・学生が話しやすい雰囲気を作る ・感染症対策をしながら楽しい機会が持てるようにする

役 職	講師	教員名	小森谷 一郎
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・実務家教員である利点を生かして、様々な取組事例をエピソード記録やドキュメンテーションとして挙げながら、より実践的でより具体的に進めることで、学生の理解を深めることのできる授業作りを目指す。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>「教育の方法と技術」では、目標に掲げた通りさまざまな取組事例と挙げ、写真や映像を活用して、授業を組み立てることができた。一方で、内容的には、分かりやすくできる部分も多くある。「保育・教育課程論」では、法的根拠に関わる部分が多く、目標に掲げる実践事例の提示は少なくなってしまう。また、内容的にもまだまだ改善できる部分は多く残されているように思う。全体的には、学生同士のディスカッションによる授業展開が少なくなってしまう。</p>		<p>以下の点に重点を置いて授業内容を考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの授業においても、内容の精選が必要である。より実践的に生かすことのできる内容を吟味しブラッシュアップを図る。 ・コロナ禍の状況を鑑み、安全を確保しながら、学生同士のディスカッションによる学び合う授業展開の工夫を考えていく。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、学生の声に耳を傾けながら過ごしたり、授業をしたりすることを心掛け、学生が安 			

心して学校生活や学修に取り組むことができるように配慮する。

今年度の反省

授業以外で学生との関わりをもつ機会がとても少なかったように思う。また、学生の顔と名前を覚えることがとても難しかった。これは学生との関係が築けなかったからであると考え。積極的な声掛けや場づくりが必要であると感じた。

次年度に向けた具体的な打開策

以下の点に重点を置いて取り組む。

- ・ 積極的に学生と関わる意識をもち、意識的に話す機会を多くもつ。
- ・ 話しやすい雰囲気作りを心掛ける。

令和3年度 卒業時満足度調査

()は学年の差

問題1	答	人数	%	問題2	答	人数	%	問題3	答	人数	%
短大の施設、設備、備品の充実度について	非常に満足	24	22.2%	短大の施設、設備、備品の使いやすさについて	非常に満足	50	27.2%	短大の授業、教育課程全般について	非常に満足	33	30.6%
	やや満足	64	60.5%		やや満足	61	66.6%		やや満足	68	63.0%
	やや不満足	20	18.6%		やや不満足	17	18.1%		やや不満足	1	6.6%
	全く不満足	0	0.0%		全く不満足	0	0.0%		全く不満足	0	0.0%
	平均	3.04	(3.00)		(満足答)	3	3%		平均	3.24	(3.27)
問題4	答	人数	%	問題5	答	人数	%	問題6	答	人数	%
専任教員の授業について	非常に満足	48	44.4%	非常勤教員の授業について	非常に満足	36	32.4%	ゼミ活動とゼミ指導教員の指導について	非常に満足	60	46.5%
	やや満足	66	61.9%		やや満足	68	63.7%		やや満足	46	42.6%
	やや不満足	4	4%		やや不満足	16	15.9%		やや不満足	11	10.2%
	全く不満足	0	0%		全く不満足	0	0%		全く不満足	1	0.9%
	平均	3.41	(3.30)		(満足答)	3	3%		平均	3.54	(3.47)
問題7	答	人数	%	問題8	答	人数	%	問題9	答	人数	%
クラス担任の指導について	非常に満足	13	11.6%	事務室教員の対応全般について	非常に満足	64	59.3%	学校行事について	非常に満足	8	7.4%
	やや満足	21	26.0%		やや満足	38	36.2%		やや満足	42	38.9%
	やや不満足	1	6.6%		やや不満足	6	6%		やや不満足	42	38.9%
	全く不満足	1	0.9%		全く不満足	1	1%		全く不満足	16	14.8%
	平均	3.69	(3.30)		(満足答)	3	3%		平均	2.39	(3.05)
問題10	答	人数	%	問題11	答	人数	%	問題12	答	人数	%
授業以外の課外活動について	非常に満足	14	15.0%	自分の専門科としての技能の向上について	非常に満足	38	36.2%	2年間【もしくは3年間】の自分の過ごし方や成果について	非常に満足	44	40.7%
	やや満足	69	64.6%		やや満足	62	61.4%		やや満足	66	60.9%
	やや不満足	26	24.1%		やや不満足	3	3%		やや不満足	9	8.3%
	全く不満足	1	6.6%		全く不満足	0	0%		全く不満足	0	0%
	平均	2.76	(3.10)		(満足答)	6	6%		平均	3.22	(3.20)
問題13	答	人数	%	問題14	答	人数	%	問題15	答	人数	%
友人たちとの出会いについて	非常に満足	12	16.1%	教員との授業以外での関わりについて	非常に満足	69	64.6%	事務教員との関わりについて	非常に満足	45	39.8%
	やや満足	32	29.6%		やや満足	41	43.6%		やや満足	61	62.8%
	やや不満足	4	3.1%		やや不満足	2	2%		やや不満足	6	6.6%
	全く不満足	0	0%		全く不満足	0	0%		全く不満足	1	1%
	平均	3.65	(3.67)		(満足答)	3	3%		平均	3.33	(3.34)
問題16	答	人数	%	問題17	答	人数	%	問題18	答	人数	%
就職活動への支援について	非常に満足	66	61.9%	トラブルを抱えた際の教員員の緊急時の対応について	非常に満足	69	64.6%	学生生活全般について	非常に満足	61	47.2%
	やや満足	41	45.6%		やや満足	46	42.6%		やや満足	60	46.5%
	やや不満足	4	4%		やや不満足	3	2.8%		やや不満足	1	6.6%
	全く不満足	0	0%		全く不満足	0	0%		全く不満足	0	0%
	平均	3.49	(3.30)		(満足答)	4	4%		平均	3.62	(3.44)
問題19	答	人数	%	問題20	答	人数	%	問題21	答	人数	%
日本を過ごす機会としての短大について	非常に満足	41	43.6%	羽生学園短期大学に入学したこと自体を今、どう感じているか	非常に満足	61	62.0%	自身の学生生活を卒業後すると100点満点で何点か？	70~100	46	46.1%
	やや満足	63	49.1%		やや満足	39	56.1%		80~89	23	22.6%
	やや不満足	2	1.4%		やや不満足	1	1%		70~79	13	17.6%
	全く不満足	0	0%		全く不満足	1	1%		60~69	10	9.8%
	平均	3.36	(3.30)		(満足答)	3	3%		平均	83.8	(85.1)

※平均は「非常に満足」を「4」、「やや満足」を「3」、「やや不満足」を「2」、「全く不満足」を「1」として算出。
調査は2022年3月14日、各クラスの担任教員により実施された。(協力者：108名)

○卒業時満足度調査 自由記述

◇羽陽短大で特に評価したい点	◇学校側にもっと努力や改善を求める点
<ul style="list-style-type: none"> ・先生が親身になって私たちに接して下さる点 (2名) ・ピアノの個室の多さ、きれいさ ・先生たちが常に味方でいてくれた ・授業も分かりやすく、毎日の学生生活に満足している ・羽陽短大に専攻科があることで、福祉の知識も学べたことが、すごい自分のためになった ・友人とたくさん話すことができる ・先生と何でも話せる場所 ・先生がとってもあったかくて過ごしやすかった ・悩んでいることがある時に先生が親身になって聞いてくれる ・K先生が大好き。たくさん話を聞いてくれて良かった。(2名) ・先生がいい人ばかり。優しい。話しやすい。(12名) ・先生との距離の近さ。心地良い距離。接しやすい。(9名) ・どの先生も相談すればよく聞いてくれ、良いスクールライフを送れた(2名) ・みんなフレンドリーなところ、アットホームな雰囲気(6名) ・授業と実習が充実している、授業わかりやすい(2名) ・レポートを通して学ぶことがたくさんあった ・真面目 ・友達がたくさんできる ・ピアノの指導、初めてでも上達できた(2名) ・事務室大好き、対応ていねいでよかった(3名) ・コロナで緊急な対応を求められたり、毎日の消毒に追われたり、変な生徒に絡まれたりしてもいつもニコニコやさしくて先生たち BIG LOVE でした。保育士になっても忘れません。 ・コロナの時はリモート対応してくれたり、実家が遠いことに配慮してくれた ・技術や知識というよりも人間性を育めたことが 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンの自動販売機の種類・数を増やしてほしい ・コロナが収束してくれれば、もっと活動できた ・コロナでもできる楽しい行事 ・トイレ掃除にもう少し力を入れるように声掛けしてほしい… ・アイスなどの自動販売機がほしい ・校舎が汚い(特にトイレ)(3名) ・教室やトイレが汚れていた ・おにぎりやお弁当も販売してほしい ・食堂があれば良い ・就職活動への協力 ・設備 ・冬寒すぎる(4名) ・授業の内容が薄いと思う時もあるので、密にしていくとよいと思う ・夏、暑い ・水が飲みたい。食べ物がほしい。 ・古いところ ・トイレットペーパーの補充 ・コロナの中だったため仕方ないが楽しみがなかった ・コロナ対策 行事等の開催について等もっと考えてほしかった ・音楽の授業 ・実践で使える制作物が少ない

一番大きいです

- ・保育や介護職への知識が格段に増えたと思います

- ・技能士さんがずっとごみ捨てしてくれて助かりました

- ・自由、ゆるいところ（2名）

- ・毎日楽しい（2名）

- ・ピアノの練習室や図書館がとても充実している（2名）

学習成果等アンケート集計結果

01年度

令和3年12月実施

[1] あなたが本学への入学を決定された理由を次の3つ下記から選んでマークしてください。

	第一理由	第二理由	第三理由
1. 進学の実念に興味したから	4	2	6
2. 入試科目があったから	2	1	0
3. 自分の学力にあったから	1	4	1
4. 学びたい学部・学科・コースがあったから	34	17	6
5. カリキュラムが充実しているから	3	9	9
6. 資格を取れそうだから	22	24	12
7. 教壇に立ちたいから	4	7	12
8. キャンパスの施設・設備が良いから	0	1	2
9. 地元の大学だから	1	6	12
10. 大学の知名度が高かったから	0	1	1
11. 大学が設置されている地域に魅力があるから	0	0	1
12. 学費が安いから	0	0	0
13. 親や教員に勧められたから	3	0	3
14. 本学しか合格しなかったから	0	0	0
15. その他	0	0	1

「第一理由」「第二理由」「第三理由」それぞれの回答数を集計し、「第一理由」回答数に「3点」、「第二理由」回答数に「2点」、「第三理由」回答数に「1点」をかけた上で合計し、その合計点の上位3位。

第一理由	第二理由	第三理由
4	6	7

[2] 本学の授業に関する以下の項目について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

質問内容(点数)	回答内容(点数)					回答者数	平均値
	はい	まあそうである	どちらとも言いえない	あまりそうとは言いえない	いいえ		
総論	5	4	3	2	1		
(1) 興味がもてる授業が多い	45	25	3	0	1	74	4.58
(2) ためになる授業が多い	50	20	2	1	1	74	4.58
(3) わかりやすい授業が多い	40	25	6	2	1	74	4.26
(4) 主体的に考え行動する授業が多い	31	29	14	0	0	74	4.23
(5) 教壇に立ちたいような授業が多い	54	17	3	0	0	74	4.69
(6) 困難性を扱うことができる授業が多い	20	28	19	3	4	74	3.64
(7) 授業が良いような工夫をしている教員が多い	44	23	6	1	0	74	4.49
(8) 授業や学生指導に対して熱心な教員が多い	52	17	5	0	0	74	4.64

[3] 授業を受けて、あなたは下記の知識や能力を身につけることができましたが、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

質問内容(点数)	回答内容(点数)					回答者数	平均値
	はい	まあそうである	どちらとも言いえない	あまりそうとは言いえない	いいえ		
総論	5	4	3	2	1		
(1) 幅広い教養	45	25	2	1	0	73	4.56
(2) 専門知識や技能	49	22	2	0	0	73	4.64
(3) 課題解決能力(課題を把握し、解決する力)	33	31	7	2	0	73	4.30
(4) 物事を批判的に捉え思考する力	30	29	12	2	0	73	4.19
(5) 情報検索を使いこなす能力	21	22	22	6	2	73	3.74
(6) 外国語を理解する能力	22	17	24	7	3	73	3.66
(7) コミュニケーション能力(議論・発表・協働する力)	25	32	14	1	1	73	4.03
(8) リーダーシップをとる力	17	22	23	3	3	73	3.58

[4] 本学の改善に向けて今後取り組むべき事項について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

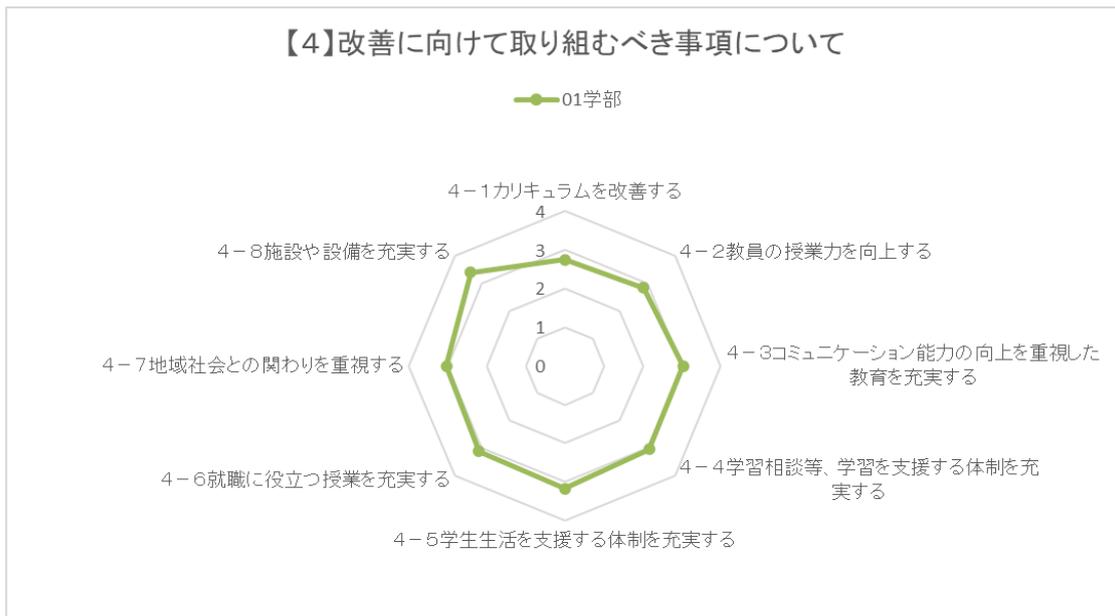
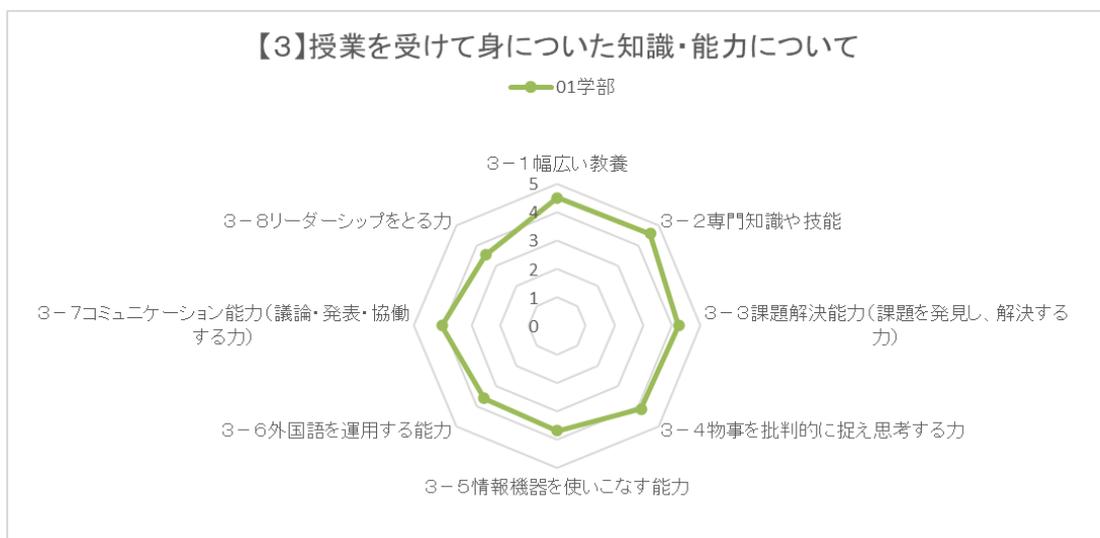
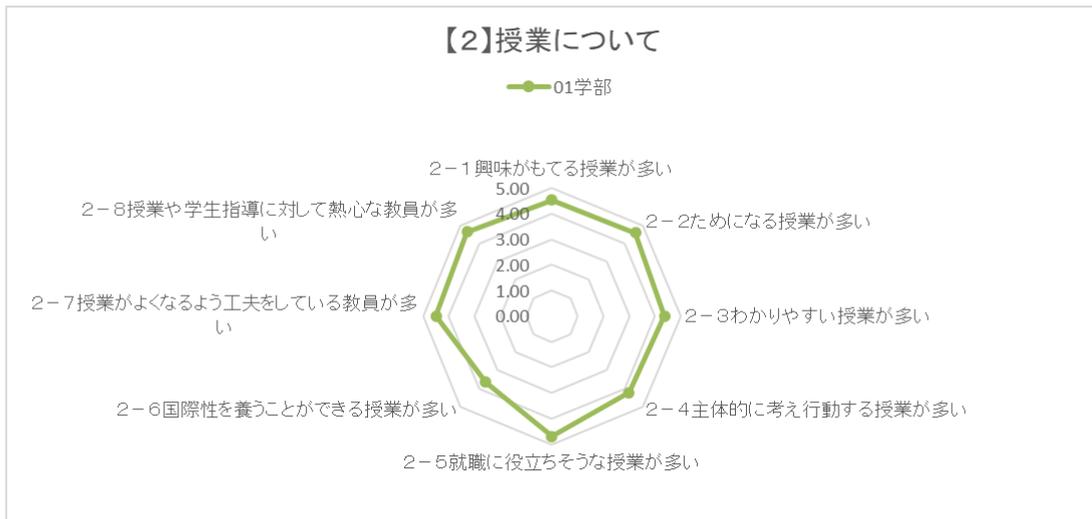
質問内容(点数)	回答内容(点数)					回答者数	平均値
	はい	まあそうである	どちらとも言いえない	あまりそうとは言いえない	いいえ		
総論	5	4	3	2	1		
(1) カリキュラムを改善する	9	14	17	15	13	73	2.74
(2) 教員の授業力を向上する	12	15	13	7	21	73	2.36
(3) コミュニケーション能力の向上を重視した教育を充実する	12	17	19	11	14	73	3.03
(4) 学習相談等、学習を支援する体制を充実する	13	17	19	9	15	73	3.05
(5) 学生生活を支援する体制を充実する	15	15	21	9	12	72	3.17
(6) 教壇に立ちたい教員を充実する	15	13	14	12	14	73	3.11
(7) 地域社会との関わりを重視する	12	15	21	13	12	73	3.03
(8) 施設や設備を充実する	19	19	13	7	10	73	3.41

[5] この一年間において、授業の平均・復習時間は1日につき平均何時間ですが、該当する数字を一つ選んでマークしてください。

質問内容(点数)	回答内容(点数)					回答者数	平均値
	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満		
総論	5	4	3	2	1		
	2	4	21	27	19	73	2.22

[6] あなたは、本学に入学して良かったと思いますか、該当する数字を一つ選んでマークしてください。

質問内容(点数)	回答内容(点数)					回答者数	平均値
	はい	まあそうである	どちらとも言いえない	あまりそうとは言いえない	いいえ		
総論	5	4	3	2	1		
	49	15	6	2	1	73	4.49



※2年次及び専攻科は新型コロナウイルス感染症流行により登校に制限があり実施できず

羽陽学園短期大学FD・SD活動報告書
(令和3年度)
通巻15巻

2022年9月1日

編集 FD・SD推進委員会

渡邊 洋一

柏倉 弘和

太田 裕子

松田 知明

白崎 直季

城山 萌々

小森谷 一朗

今野 清

浦山 仁一

星 亮一

芳賀 亜樹子

発行者 渡邊 洋一

発行所 羽陽学園短期大学 FD・SD 推進委員会